

## 社会における支援に関するアンケート調査

群馬県では、学校や社会で、生きにくさや働きにくさを感じている方の支援に向けた「子ども・若者の自立支援ガイド」を作成するにあたり、学校を離れて社会に出てから、支援者・機関につながって、現在、何らかの形で社会生活を送っている方を対象に、当事者の体験や考え方について、オンラインでアンケート調査を実施しました。結果の概要は下記のとおりです。

【調査期間】 令和8年5月12日（火）～6月8日（月）

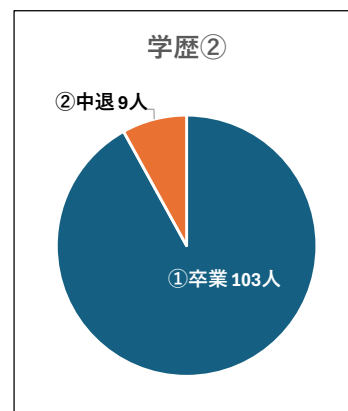
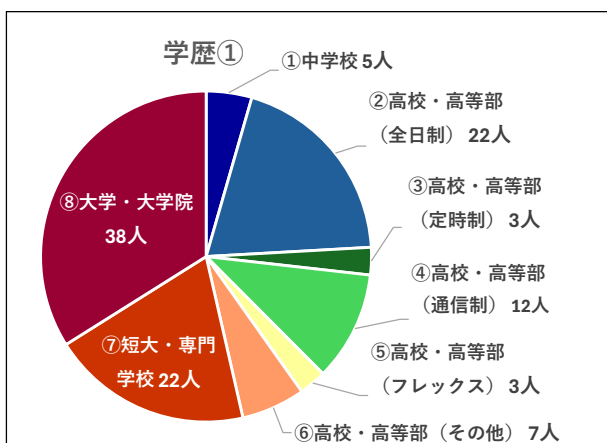
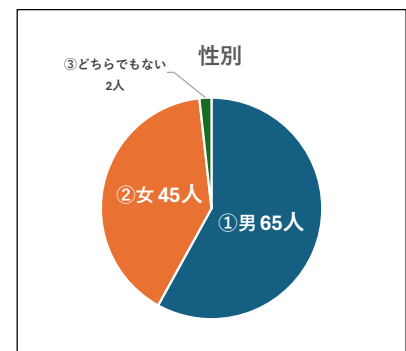
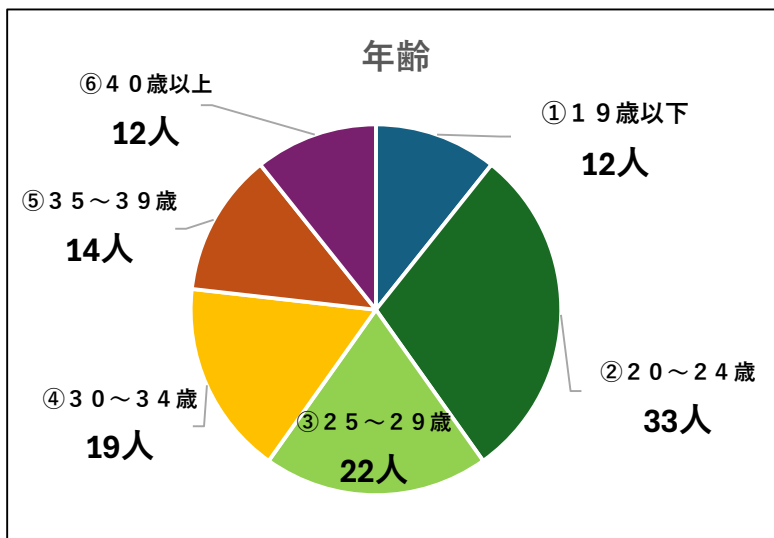
【調査対象】 下記の相談支援機関

※ぐんま若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センター、県発達障害者支援センター、県ひきこもり支援センター、就労移行支援事業所、各種支援機関・団体・支援者個人などを通じて、利用者の方に回答の協力を呼びかけていただきました。

【調査期間内の回答数】 112名

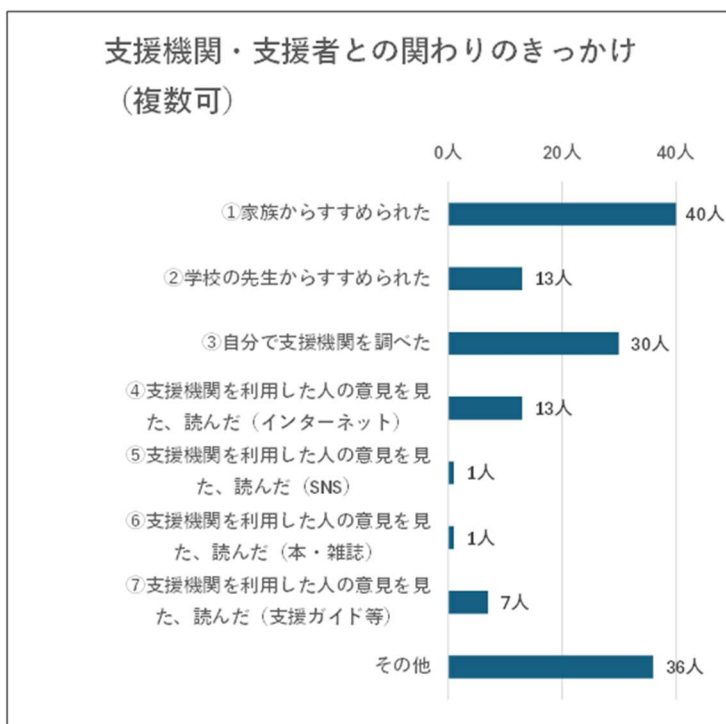
■ 回答者の基礎情報 年齢、性別、最後に所属した学校、卒業・中退

性別・学歴を問わず、多様な年代の方が、支援機関を利用していることがわかりました。



1. 支援機関や支援者とのかかわりについて教えてください。

(1) あなたはどのようなきっかけで、支援機関や支援者のところに行ってみようと思いましたか。



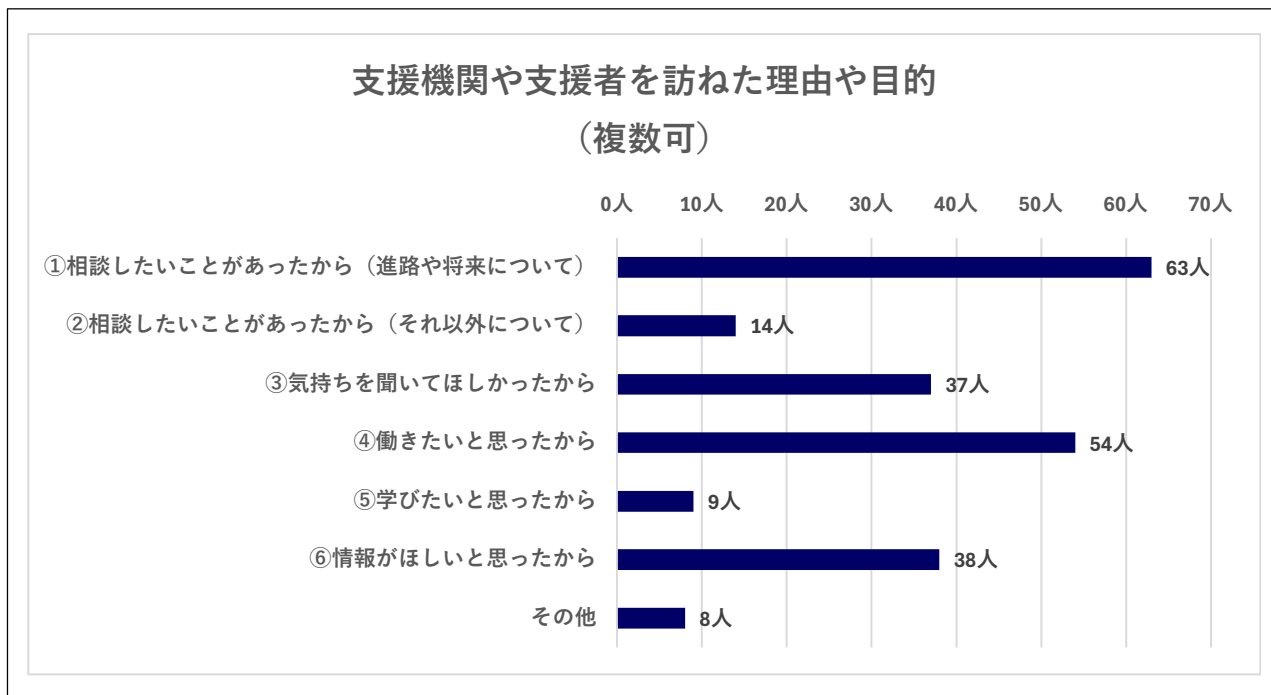
きっかけは家族からすすめられた方が最も多く、自分でも支援機関や利用者の情報を調べていました。また、学校の先生、施設などの支援者、医療機関、児童相談所や就労支援機関などをあげていました。

適切な「支援情報」が当事者に届くように、どこで、どんな支援が受けられるのか、異なる支援機関や支援者が情報の共有を行うこと、その為に各機関の役割や支援対象などの情報発信を積極的に行うことが必要です。

- 【その他】
- ・ 児童養護施設や里親などの支援者 11人
  - ・ 医療機関などの主治医、カウンセラー 6人
  - ・ 児童相談所などの支援機関 5人
  - ・ ハローワークなどの就労支援機関 4人
  - ・ 友人や知人、親族からの紹介 4人
  - ・ 市役所への相談からの紹介 2人
- ・ 就活のストレスがすごく、自分に障害の診断が下ると知って、適切な進路を選びたいと思った。(20~24歳・男)
- ・ 支援機関や支援者が講師を務める講座に参加して知った(35~39歳・女)
- ・ 支援者と親族のため、初期は利用者、その後は支援者として参加することで感想を共有することもあった(25~29歳・女)
- ・ 広告で支援機関を見た(30~34歳・女)

講演会や勉強会に関する情報も、当事者が動き出すきっかけになっているようです。

(2) あなたは、どんな理由や目的で支援機関や支援者のところに行ってみようと思いましたか。  
(複数可)



支援機関を訪ねた理由は、具体的な相談内容（進路や就労、学びなどの情報）がある方が多くいましたが、自分の気持ちを聞いてもらいたいという方も3人に1人いました。

訪ねた方が不安や心配に感じていることを、言葉で伝えられるように傾聴することも大事なサポートです。状況によっては支援者から声をかけることも必要です。

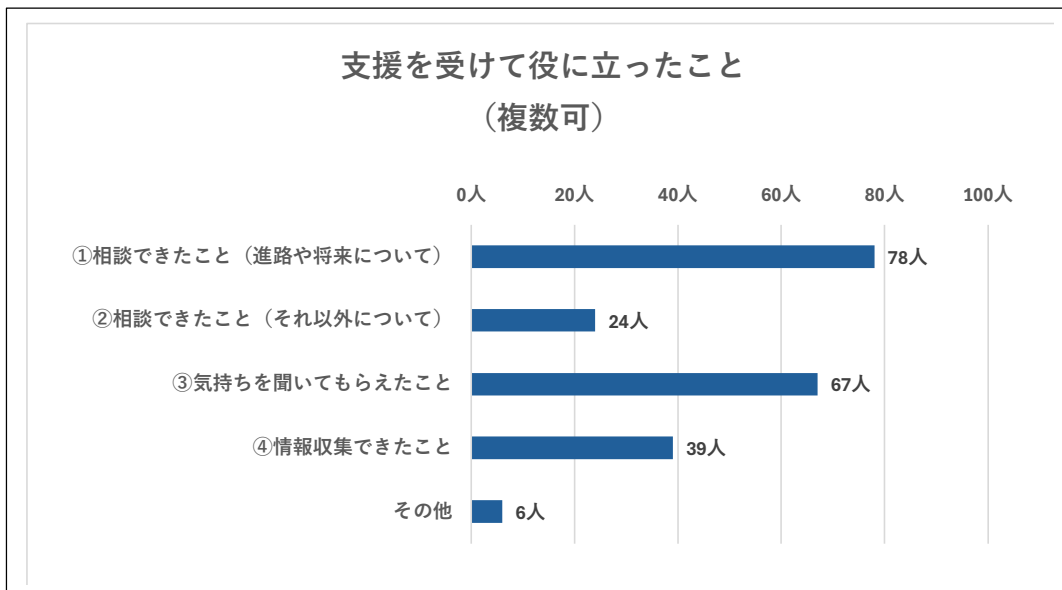
**【その他】**

- 声をかけて貰ったから。
- 親に勧められたから。
- 働いても体調を崩してしまい仕事が長続きしない事が続いていた。また、日常生活や社会生活に困難を抱えていたため。これらを改善したかったから。
- 活動の場、社会とのつながりを持つため。
- 居場所が欲しかったから。
- なかなか働く気が起きず、きっかけになればと思った。
- 最初から行きたいだなんて思っていない。

② 「（それ以外の）相談したいことがあって訪ねた」の内容

- 相談する事で自分が今なにをどう思っているかを言葉にできるのでそれを整理する機会がもらえました。
- 今の環境や金銭面について。
- 医師にすすめられてきたけれど、自分ではまだ働ける状態ではないと思っていたのでどうしたらいいのか相談したかった。
- 日常生活での悩み事など。
- 家庭・生活環境。
- 生活面やメンタルについて。
- 仕事。 ・家族や自分(プライベート)の事。
- 就職するためにはなにから手を付ければいいのかわからなかったので、そのことについて
- これからどうしよう等からくる漠然的な不安から。

(3) あなたが受けてきた支援で役に立ったことを教えてください。（複数可）



【その他】

- 奨学金や助成金を受けられたこと。
- 働くための下準備として生活リズムの改善ができたこと。
- 体の不調を治すことができた。
- 自分の障害の特性について知ることができた事。
- 人との関わりを持てたこと。活動をできたこと。

## ②「（それ以外に）相談できて役に立ったこと」の内容

- ・施設の職員が話を聞いてくれた。 ・仕事。 ・今の病気で困っていることについて。
- ・日常生活での悩み事。 ・自分の障害について。 ・家庭・生活環境。
- ・家族について。 ・求人の紹介 見学 体験 ジョブトレ。
- ・興味・能力・条件といった指標を知れたこと。 そのうち何を重視するか見えたこと。
- ・プライベート面を含む相談（35～39歳・女）
- ・家族以外の人間と定期的にかかわることができる。 他者とのコミュニケーションの練習になりました。 これも一つの社会経験になるのではないかと愚行致します。
- ・空白の期間があっても大丈夫なのかスキルがあった方がいいんじゃないかなど不安。

## ④「情報収集できたこと」の内容

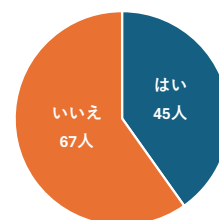
- ・就職活動について。
- ・行政機関で聞いても分からなかったことなど。
- ・障害者雇用における就活の進め方等。 ・働く上でのマナーなど。
- ・障害者の就職について。 ・探している仕事。
- ・職場見学に行き、実際に行われていることを見聞きしたり、企業の人の話を聞いたり、直接質問をできたこと。
- ・就職活動の進め方やポイント。
- ・何をしてもよいか分からないときに、方向を指し示してくださることは非常にありがたく思われます。
- ・企業見学について知ることができた。
- ・居場所について。 ・会社に関する基礎な事項。
- ・職場体験や私生活の相談が出来たため良かった。
- ・自分の歳やブランクでも就職できる場所やあったら有利なスキルが知れた。

(4) 上記(3)の役に立った支援は  
学校の中でも受けることができていましたか。

当事者が求めている情報提供や支援について、学校だけで対応しきれないことを改めて確認できました。

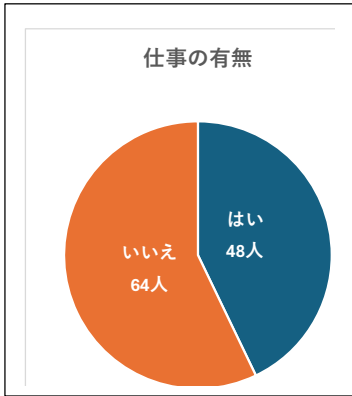
社会で出てから必要とされる具体的な情報について、学校と社会が連携して提供していくことが必要と言えます。

学校の中でも役に立つ支援  
を受けられたか

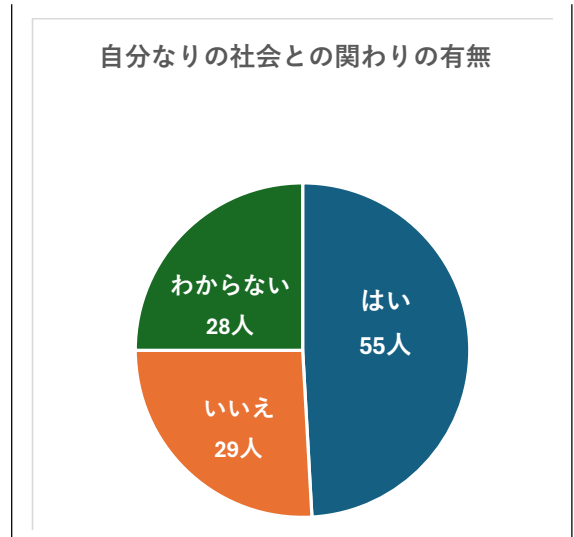


2. 現在の状況について教えてください。

(1) 現在、お仕事をしていますか。 (2) 現在、『自分なりの社会との関わり』



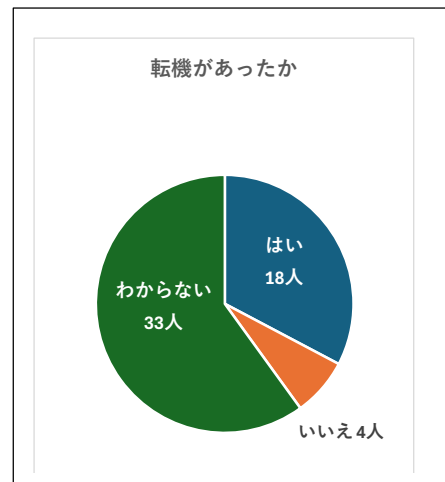
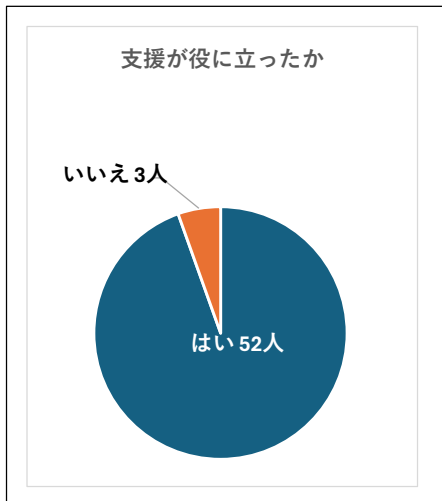
※（仕事、仕事につくためのトレーニング、ボランティア等、社会と関わりを持つ活動）をしていますか。



回答者の半数以上が仕事に就いていないことが分かりました。  
また、自分なりの社会との関わりが持てない・わからないでいる方も半数以上を占めていました。

(3) 『はい』と答えた方（55人）  
支援者機関が役に立ったと思いますか。

\*関わりを持つ、転機になったできごとや、きっかけとなったできごとがありますか。



【はい】と答えた方のできごと

- ・両親が年を取り、そろそろ自分の力で生活していかななくてはならないと自覚した。
- ・支援者との会話の中でやってみようと思った。 ・相談にのってもらったこと。
- ・働く恐怖は未だにありますが、体験などを通して徐々に慣れてきているため。
- ・職業体験や、見学をさせてもらった。 ・仕事の就職のため。
- ・通信制高校に進学した。 ・自分にどのような仕事が適しているか。
- ・同世代の方がスポーツの大会で活躍していたことが刺激になった。 など

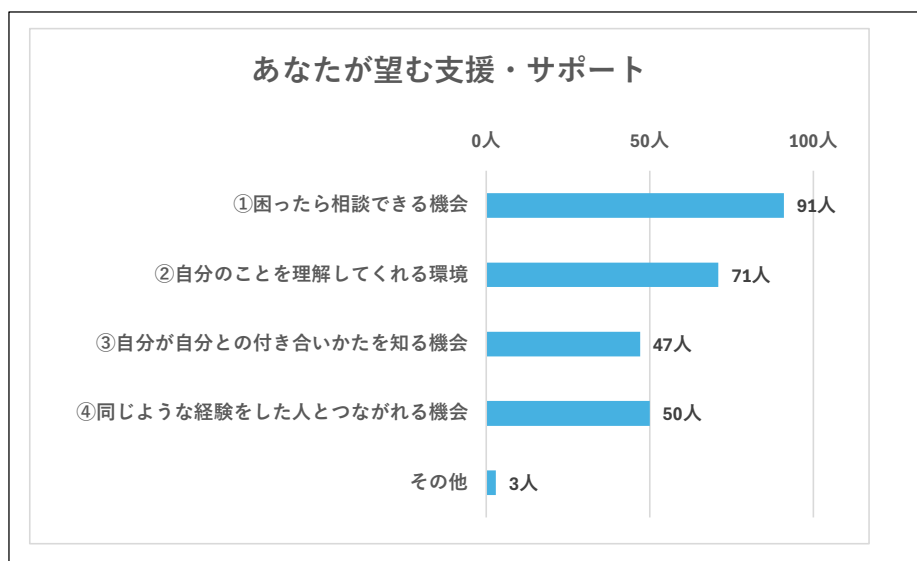
(4) 今後、あなたにどのような支援やサポートがあれば、さらに「働きやすさ」「生きやすさ」が高まると思いますか。(複数可)

当事者が望む支援では、「困ったら相談できる機会」(81%)、「自分のことを理解してくれる環境」(63%)があることを回答していました。同じ経験を持つ他者とのつながり、自己理解に対する支援を期待する声もありました。

近年、「いい学校に入り、いい会社に入れば安泰……。」という将来の目標が持てた時代から、自分らしい働き方を求めて転職を繰り返したり、自由な生き方を模索して定職に就かなかったり、何を目標に努力すればいいのかが見えにくくなっています。

そして、自分より優れた同世代の活躍が目に入ると、いつも「自分には何もない」という焦りや不安を感じて自己肯定感が低くなり、「生きにくさ」や「働きにくさ」を感じているのかもしれません。

そうして抱えてしまっている不安や心配を和らげることで、一歩前に進むきっかけをつかめるのではないのでしょうか。

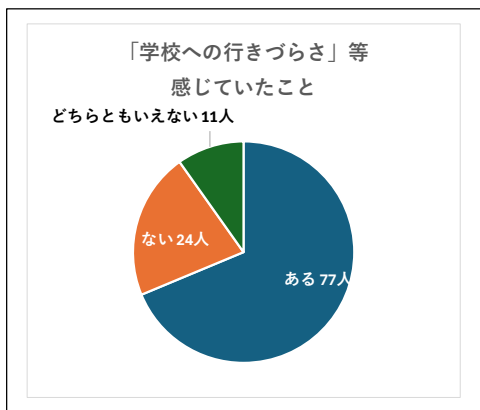


#### 【その他】

- 学習面の塾や勉強の支援、心と身体を癒すヨガ教室や占い等…さまざまなイベントがあるといいなと思いました。
- すべての人に各々が安心できる場所、人間関係があればよいと思う。そこから自分自身の安心を確立できるようになればよいと思います。
- 仕事を紹介して経験できるような機会があればよいと思います。

### 3. 学校時代のことについて教えてください。

(1) 「学校への行きづらさ」「学校での過ごしづらさ」を感じていたことはありますか？



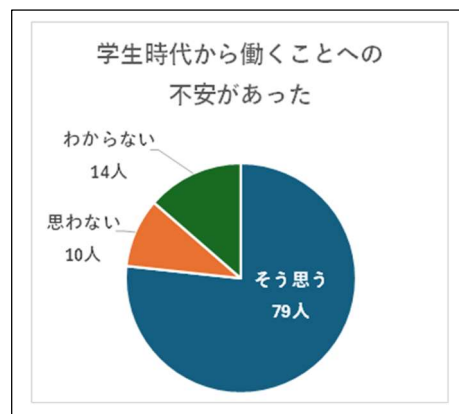
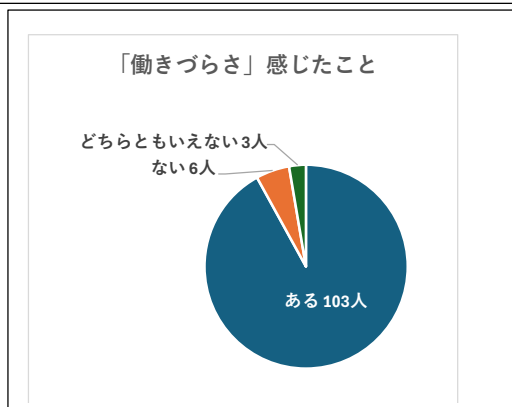
社会に出て、生きにくさや働きにくさを感じている方の多くが、学校時代から行きづらさを感じていることがわかりました。

その要因として、働くことのイメージがつかめない、何をしたらいいのかわからないなど意識の問題や、得意・不得意、コミュニケーション力などの自己理解の不足などがありました。学校時代に取り組める課題が多くあるようです。

(2) 学校を卒業して、働く年齢になったとき、「働きづらさ」「働くことへの心配や不安」を感じたことはありますか？

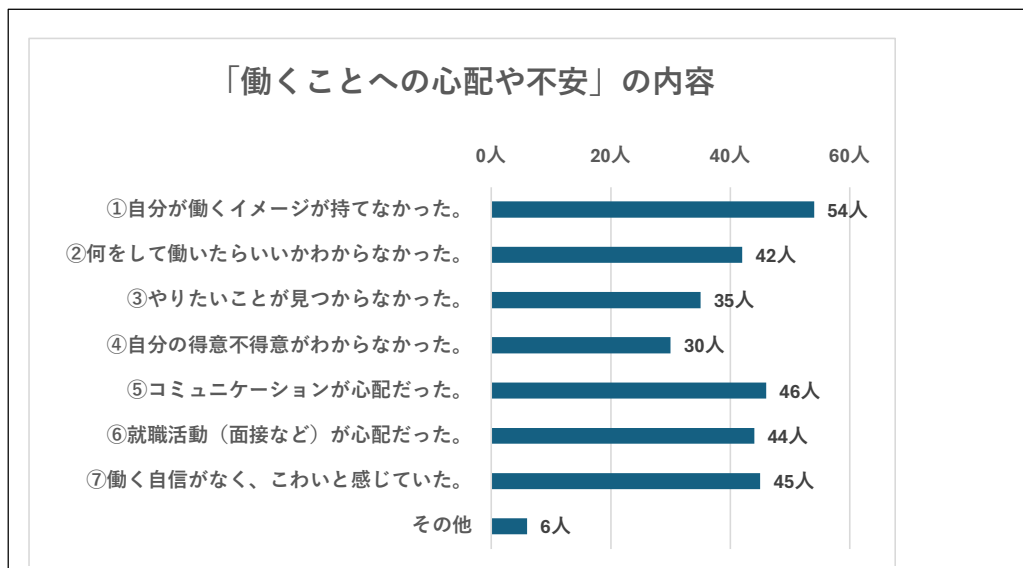
【あると答えた方】

(3) - 1 学校時代から「働くことへの心配や不安」を感じていましたか？



【そう思う】と答えた方

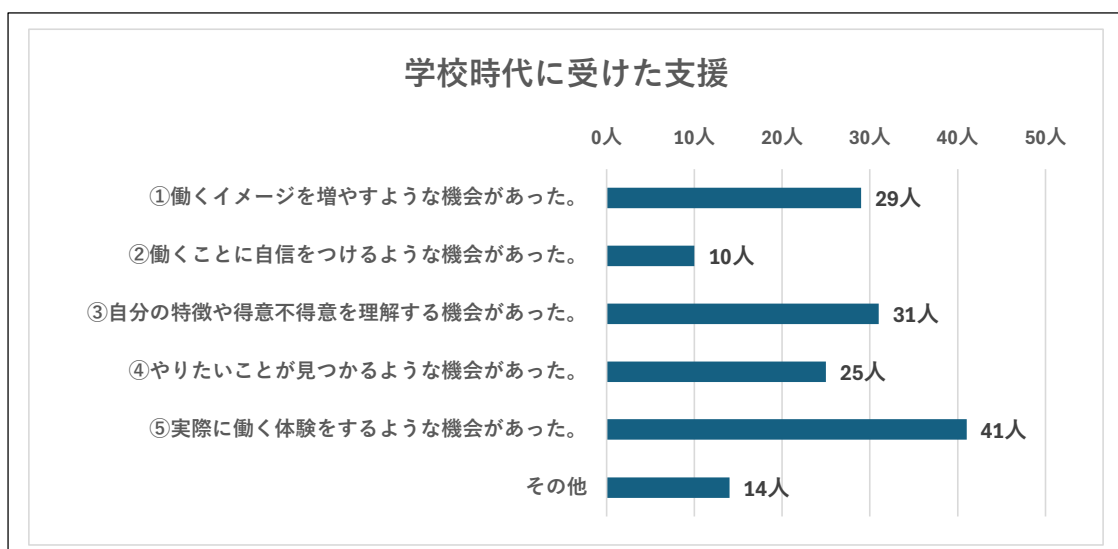
(3) - 2 「働くことへの心配や不安」とは具体的にはどのようなことでしたか。(複数可) :



【その他】

- 金銭面でのハンディキャップ。
- 高校卒業して大学に進学したかったが…経済的な面で断念するしかなかったため、自分の好きな仕事にはたどり着けず、やりたいことが見つからず、生きるために仕事をしていた
- 受験に失敗、就職に切り替えないといけなくなり心の準備がちゃんと出来ないままだったこと。
- 周りからの期待が大きかったらどうしようと不安になってしまった。
- 社会に自分がどのように関わったらいいかわからないから。
- 働くことにも生活していくことにも希望がなかった。

(4) 学校時代にどのような支援を受けたか、教えてください。(複数可)



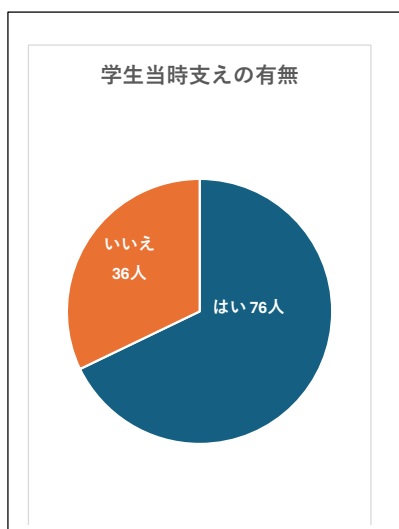
【その他】

- 支援団体への紹介があった。
- 施設に入所中、高校に通っていたのですが…バイトしてスーツのお金の支給をもらえる支援があった。又、車の免許を取らせてくれる支援もあり、車の免許の支援もあり、取得もでき、大変助かりました。
- 会社見学。・学校で専門的に学んでいた保育・教育実習。
- 学校時代にはまったく支援を受けられなかった。

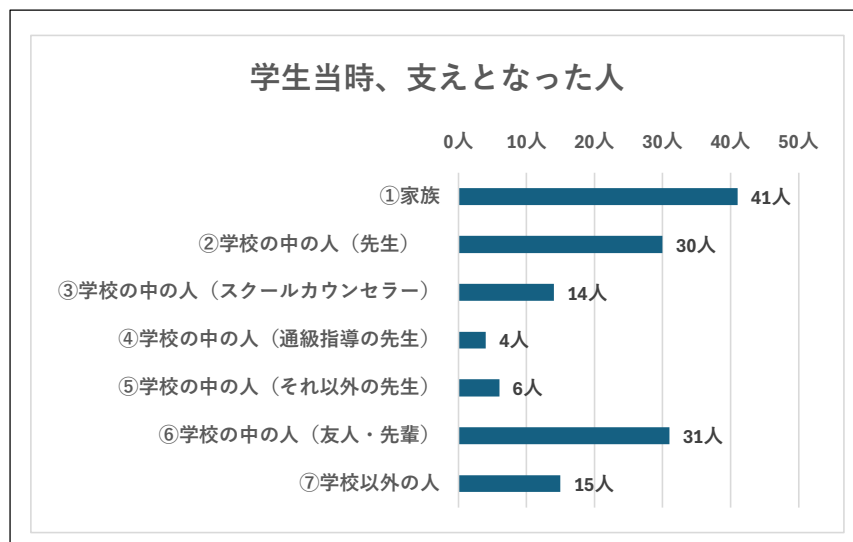
学校時代に支援を受けられなかったと回答する方が複数いました。

「社会につながるための支援とは何か」「個々の抱えている困難に向き合う支援方法」など、当事者の声から支援者が取り組むべき課題が見えています。

(5) 学校時代、自分の支えになった人がいましたか。



【「はい」と答えた方】 どなたですか（複数可）



「学校以外の人」具体的な相談相手

- ・ 知人
- ・ 児童相談所の担当職員
- ・ 施設の先生
- ・ 小学生時代の恩師
- ・ インターネットで知り合った人
- ・ 病院の先生
- ・ 自動車教習所の指導員、学校以外の友人

(6) 学校時代に、働くことについてどんな支援があると役に立つと思いますか。意見を聞かせてください。（自由記述）

- ・ 金銭面での機会消失の予防。(25～29歳・男、大学卒)
- ・ 職場体験、インターシップ、適性検査。(40歳以上・男、高校卒)
- ・ 実際に働いている人の声を生で聞く機会。(20～24歳・男、大学中退)
- ・ 無料のコールセンター相談窓口、大学進学のための学費支援、働きながら職業訓練校や資格取得できる就職支援、家賃が安い賃貸のアパートに住める支援、車の免許取得の支援、資格取得など学習面の勉強の支援、ひとり親家庭のフードバンクやこども食堂の提供、学童保育や子供の学習塾の支援、子供の送り迎えサービスや、お泊まり保育や、一時預かり、託児所、病児保育等があると役立つと思いました。(30～34歳・女、高校卒)
- ・ 広い分野で職場の体験ができる支援があれば、選択肢が広がると思います。  
(40歳以上・女、大学卒)
- ・ 学生の時は出来ることが少ないですがその中で確実に出来ることを実行【凡事徹底】を心がける事が大切です。一步一步進めば自信につながり、やがて道になるので、まずは出来ることをやりましょう。(25～29歳・男、高校卒)

- 一人一人に寄り添うカウンセリング、食料に困っている人への支援、家を失ってしまった人への住居支援。（20～24歳・女、高校卒）
- 自分に何が向いているか自分自身について知る機会。（40歳以上・女、高校卒）
- 学校時代は、障害がわからずまったく支援を受けられなかった。生徒の身近に障害に関する悩みを受けられる支援者がいる事。（35～39歳・男、高校卒）
- 自分の障害特性を理解してくれる環境や人がいると働くことへの不安を相談しやすいのでそういった環境があるとよい。（20～24歳・女、短大・専門学校卒）
- 学生の持つ適性を何らかの形で測ることで、就職後のミスマッチを予防する支援。（20～24歳・男、大学卒）
- 働くのに必要なスキルを習得できる。（25～29歳・女、高校卒）
- 就職した卒業生の声を聴く機会。（35～39歳・男、大学卒）
- 働きづらい人へのサポート。（25～29歳・男、大学卒）
- 個別面談の形式として、任意で面談の参加を募る形ではなく、一度は全員に対して定期的な面談や相談の機会を作る形式も必要かと思います。（35～39歳・男、大学卒）
- 職業体験（色々な職種）、インターンシップ、実際に働いている人のお話を聞く機会、経営者のお話。（40歳以上・男、大学卒）
- 社会に出る前の状態だと自分が働くイメージができないので、社会に触れる機会（職場体験、インターンシップなど）学校側からの積極的な支援があるといいと思う。（35～39歳・男、大学卒）
- 積極的なインターンシップ支援や進路相談。（20～24歳・男、大学卒）
- どんな仕事につけばいいかわからない人や、目標や夢がない人が、本人にあった適切な将来の目標を設定する意志を持てるような支援。サポステのような相談できる機関と、その周知があるとよかった。（25～29歳・男、大学卒）
- アルバイトを必修科目にして、無理やりにでも働く経験をつける。（25～29歳・男、大学卒）
- 働くことに不安を抱えていたが現在は働けるようになった人の話を聞くなどの交流する機会。（35～39歳・女、大学卒）
- 各業界で何を事前に身に着けていると採用されやすくなるかの講座・解説。（25～29歳・男、大学卒）
- 大変かもしれないけど、自分にどんな仕事に向いているかみたいな診断をして、診断結果に基づき仕事を体験してみるとかあるといいのかもしれない。（25～29歳・女、短大・専門学校卒）
- 自分の特性や長所を見つけることのできる機会があると役に立つ。（25～29歳・男、大学卒）
- 働くイメージが持てないため気軽に実地で体験できるとイメージを持ちやすいと思います。（20～24歳・男、大学卒）

- 働くことに対するイメージは人によって異なると思います。社会に出ることが怖かった自分にとって「働く」ということについてもっと考える機会があったらよかったなと思います。自分に何の能力もないと考えてしまったり、自尊心が低い子もいると思います。学校生活の中で人から求められたり受け入れてもらえる積極的な機会があると良いのかなと思います。(30～34歳・女、大学卒)
- 実際に働いている人の働いていることの経験を聞く。また、働きだすまでの流れ、情報収集や就職活動を含めた経験を聞く。(35～39歳・男、大学卒)
- 楽しく生きていくことと、真面目に勤務することと、働いていくことは矛盾せず体現できること。働く中であまり自分自身を責めず、ゆっくり自分の成長を見守っていけることが大事だと思う。大学卒であるか否かに関わらず、経験のないことを始めるときにはしるべき時間がかかることを伝えてあげたいと思う。(25～29歳・女、大学卒)
- 実習体験。(30～34歳・男、大学卒)
- 自分の適性を知れるような支援。(25～29歳・男、高校卒)
- 学生時代は、実際に社会に出て働くイメージがほぼできず、自分が実際に社会に出て活躍できるか不明なため、様々な職種の職場での業務体験ができる機会を提供してくれる支援が必要だと感じております。(30～34歳・女、大学卒)
- カウンセリング。(25～29歳、高校卒)
- もっと様々な職業で体験ができたり、不安なことを相談できたりする環境があればいいと思います。(25～29歳・女、短大・専門学校卒)
- 職場体験を中学生でするのではなく小学生から高校まで実施した方が良かった。歳によってなりたい、やりたい職業は変わるのでその学年で実施した方が自分は理系なのか文系なのかそれとも体を使った仕事が向いているのかがわかると思ったからです。(30～34歳・男、短大・専門学校卒)
- インターンシップ等の支援などから浅く広い支援が欲しく思います。(30～34歳・男、大学卒)
- 社会の厳しさではなく、社会の温かさや人との繋がりの大切さの機会を与えてくれることから、たくさんのことを学べるかと思います。(40歳以上・男、大学卒)

社会で「生きにくさ」や「働きにくさ」を感じている方は、自分のことを安心して話せる場所、聞いてもらえる人を必要としています。自分自身（得意・不得意）を理解すること、自分自身で進む道を選択できる複数の情報提供も欠かせないと言えます。

そして一人ひとりが、社会の一員として使命と役割をもって社会参画が実現できるように願い、応援できたらと思います。